

お茶の水での留学生活

東呉大学 チョウセイユウ

K2590071

もし台湾で普通の生活を送っていたら、今の私はもう社会人になっていたかもしれません。この半年間の留学生活は、想像していたよりもずっと早く過ぎてしまいました。期待に胸をふくらませてキャンパスに足を踏み入れたあの日から、帰国の準備をしている今まで、やり残したこともまだたくさんありますが、半年前の自分が留学することを決めたことを、心から幸せに感じています。この時間は、私にとって何にも代えられない大切な宝物です。

この半年間、多くの授業に挑戦しました。熱心に指導してくださった先生方のおかげで、さまざまなことを学ぶことができました。中でも最も印象に残っているのは、加藤先生の「日本事情演習 3B」です。それまでの日本語学習は文法中心で、建物の名前や服の種類など、日常生活で使う細かい言葉を深く学ぶ機会はあまりありませんでした。しかし、これらは実際の生活でとても重要です。この授業のおかげで、買い物をするときに、ただ「コート」と言うのではなく、自分のほしい「カーディガン」を正確に伝えられるようになりました。

そして、ここで出会った先生方や仲間の皆さんにも、心から感謝しています。特に、指導教員の王一瓊先生には、本当にお世話になりました。最初の面談のときから、先生はいつも笑顔でやさしく接してくださり、学期末にも、私たちをもんじゃ焼きを食べに連れて行ってくださり、心のこもったハンカチのプレゼントまでいただきました。先生の温かいお気持ちは、一生忘れません。

あと、一緒に御茶ノ水へ来てくれたパートナーのリーシンウさん、あなたの支えがあったからこそ、私は勇気を出して一步を踏み出し、この留学生活を明るく楽しいものにすることができました。本当にありがとう。

最後に、この日々を振り返ってみると、世界中の人々と「日本語」という共通の言語を通して、交流すること自体が、奇跡のように感じられます。このレポートを書きながら、みんなと過ごした全ての思い出が頭に浮かんできます。この半年間で私が得たものは、語学力の向上だけではなく、異文化に対する寛容さ、そして、より勇敢で独立し、人生の本当の意味を少しずつ理解し始めた「新しい自分」です。

この大切なお縁とかけがえのない思い出は、これからの私の人生において、きっと大きな支えになるでしょう。

ありがとう、御茶ノ水。

そして、すべての出会いに感謝いたします。

